

令和7年度第4回 かつらぎ町地域公共交通活性化協議会

会 議 録

日時:令和7年10月10日(金)10:15~11:20

場所:大谷公民館2階大ホール

出席者:出席 17 名(うち2名は会長委任)

- 会議次第: 1. 開会
2. あいさつ
3. 報告事項
4. 議事
5. 閉会

報告事項について:

(1)第1回運賃協議会部会の書面開催について 意見なし

(2)町実施のデマンド型乗合交通実証運行について

【質問事項】

○1日あたりの利用者数は。

→答:日によって差はあるが、1日20名程度。

○利用が多くて、予約がとれないということもあるのか。

→答:今のところはない。事務局がシステムで予約を入れるのには困っている。

【意見】

○電話で予約することに抵抗がある人もいる。電話の仕方や電話での話し方を電話の近くに貼っておいてもらえるように作って配布しようかと社協内で話していた。高齢者の健康ということでいうと、週1回以上の社会参加が非常に健康的と捉えている。でかけるきっかけとして使ってもらいたい。単なる交通ではなく、健康にもつながるということを含めて案内していきたい。

議事について：

議題1： かつらぎ町地域公共交通計画策定業務について

【質問事項】

○バスと電車の接続を全て改善するのは困難。接続改善とあわせて駅前に塾を誘致する、学習スペースを作るなど、待ち時間をどう過ごすか整備する方が結果的に子育てしやすいまちづくりにつながるのではないか。駅に人が集まれば、高齢者も若い人も楽しく過ごしていただけるのではないか。

→答：待ち時間をどう過ごすか検討していかなければならない。すべての人が満足するのは難しい。駅での待合スペースについても、公共交通の活性化とはまた違ったところで検討していきたい。

○今すぐに意見を出しにくいと思うが、後ほどメール等での受付も考えているか。

→答：そういう形も考えている。事務局から改めて通知する。

○すべてができるのが理想だが難しい。どこを優先するのか考えていく必要がある。生活リズムを踏まえた課題設定とあったが、いろいろな生活スタイルがあって難しい。誰の、どんな移動を助けるかをイメージするのが大切。例えば、高齢者といっても、いろんな高齢者がいるが、どこにお住まいの、運転が難しいけど週に2回以上出かけたい高齢者のように考えていく。ふれあいサービスの持続性についても触れられていたが、地域でやっていくのもある。人材面、資金面でも何か可能性がないかを検討する。地域の団体や企業から何らかのサポートということも可能ではないか。5年後のイメージについて、免許返納を自分ごととして考えたときに、免許返納するときの身体状況がどんな状態かをイメージしてほしい。車に乗れなくなったときに、バスや電車に乗るのは難しい。だから、免許返納を考え始めたタイミングから、電車やバスを使って出かけることを始めてほしい。普段運転している方が、公共交通で出かけてみようという形で、少しずつ車と公共交通を使い分けしておけば、いざ運転が難しくなった時にも、それまでの経験を活かして出かけられる。研究者仲間では、「おでかけ準備運動」というふうに言っているが、少しずつ公共交通を使って出かけられるようにしていく準備運動といったことも、重要ではないか。

→答：計画にどのように盛り込んでいくかについて、次回以降で委員のみなさまにご協議いただきたい。